

IV.部門の活動状況

2019 年 4 月～2020 年 3 月

医療安全管理室

課長 宮崎俊子

1. 任務、役割

医療安全管理者の専従者を置き、院内医療安全管理組織の事務局として患者と職員の安全をまもるための様々な医療安全活動の推進を援助します。

2. 体制 1 名

職種

薬剤師 1 名

3. 概要、特徴、特色

(1)実績

- ①1年間に報告された「ひやりはっと事故報告」(インシデント・アクシデント報告)は、2,342件ありました。全ての報告書に対し修正処置が実施されその評価と承認が滞りなく行われるように、報告部門への声かけや援助を行いました。
- ②日々のラウンドで事故発生部門への聞き取りや現場の確認、その後の対応などについて確認しました。
- ③発生した医療事故のデータ集約を行い、医療安全対策評価カンファレンスや医療安全委員会へ情報を提供し、対策の必要性や内容について協議しました。
- ④是正処置が必要な事例において、処置が滞ることなく実施できるように、是正の進捗に合わせてヒヤリングを実施しました。
- ⑤死亡退院したケースのスクリーニングを実施し、医療事故調査制度の対象となり得る事例を見逃さないようにしました。

(2)医療安全委員会(P152参照)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)医療安全管理者の医療安全対策に関わる研修会に参加

7月	・日本医療機能評価機構 認定病院患者安全推進協議会主催「2019年度 第1回 検査・処置・手術安全セミナー」
9月	・医療の質・安全学会主催「同じことを二度と起こさないための医療事故調査方法の研修」
11月	・埼玉県看護協会主催「第13回埼玉医療安全大会」
2月	・埼玉県医師会医主催「埼玉県医師会療安全研修会」「医療安全につなげる勤務環境改善説明会ー働き方改革を視野にー」

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1)画像関連のシステムが新規更新されていく過程で、画像診断報告が確実に伝達され、監視できる仕組み作りをクオリティーマネジメントセンターで進めます。
- (2)医療安全対策における地域連携のさらなる強化が求められています。地域の病院の医療安全管理者同士の情報共有をさらに進め、お互いの医療安全対策を向上させていきます。

医療情報管理室

課長 野田邦子

1. 任務、役割

- (1) 医療記録・医療情報の管理。
- (2) 医療の質向上につながる質指標測定・各種統計作成。
- (3) 診療支援および学術研究活動支援の3つの業務を主として担いながら、クオリティマネジメントセンター（以下「QMセンター」）事務局として、医療の質改善のためのPDCAサイクルが動くための支援機能を果たします。

2. 体制 10名

常勤職員 7名

非常勤職員 3名（注1）

（注1）1名は医師アシスト業務として外科系学会が運営するNCDへの手術症例登録録を行っています。

■認定資格

診療情報管理士	6名
診療情報技師	1名
院内がん登録実務中級認定者	1名
院内がん登録実務初級認定者	1名
医療クオリティマネージャー （日本医療機能評価機構）	1名

3. 概要、特徴、特色

- (1) 過去記録の取り寄せは半減しました。保管期限の経過した関係書類の廃棄処分をしました。医療記録の質管理に関しては、記録指導者会議を開催し各職種の記録改善を支援しました。記録監査は年3回、カンファレンス記録、病状説明の記録、診療情報提供書について行いフィードバックしました。またコピー＆ペーストの多用を防止するためのニュース発行と個別通知を実施しました。
- (2) 健康らいぶらりにおいて「記録の読み方講座」を月3回程度継続し、マイかるての利用普及に努めるとともに、利用者交流会で出された声をニュースで広報し、医療コミュニケーション改善に努めました。
- (3) 医療の質改善の指標(QI)の測定からチーム医療としての質をサーベイし、3回のマネジメントレビューにインプット情報として提供しました。当室で管理している診療データのまとめ・分析から、いくつかの診療分野での質課題を提起しました。

(4)実績(2019年1月～12月)

過去記録取り寄せ・貸出	81件(前年比49%)
病歴登録管理	8,565件(前年比101%)
退院時要約管理	7日以内完成75% 14日以内完成92%
死因登録	440件(入院371、外来59、在宅10)
診療情報検索・調査	72件(依頼49、学会等23)
院内がん登録	866件(前年比95.4%)
NCD登録	860件(外科688、乳腺172)
ニュース発行	9回(医療記録関連、QMセンター発)
カルテ開示	114件(申請63、法照会51)
マイかるて新規登録	553件(前年比101%)
記録読み方講座	45人
利用者交流会	12人

(5)クオリティマネジメントセンター(P148参照)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)講演会活動等(P188参照)

7月	・医療の質と指標-その測定・可視化と改善
----	----------------------

(2)外部研修

- ①がん登録初級実務研修 1名(6月)
- ②事務中堅職員研修 1名(6月)
- ③全日本民医連 QI 推進士養成セミナー 1名(7月)
- ④がん登録中級実務研修 1名(7月)
- ⑤通信講座 4名受講・修了

(3)部門内学習

- ①民医連綱領ブックレット学習(5-9月計5回)
- ②症例を読み取る(11月)
- ③時間管理(2月)

5. 今後の展望・次年度に向けて

QMセンター事務局としてデータを活用した部門・チームの質改善活動を促進し、チーム医療の質の証としての記録の改善を進めます。

感染管理室

部責主任 吉田智恵子

1. 任務、役割

感染管理認定看護師の専従者を置き、院内感染防止対策組織の事務局として、院内の感染予防と感染防止対策の推進を援助します。

2. 体制 1 名

職種

看護師 1 名

3. 概要、特徴、特色

- (1) 院内感染防止対策組織の一員として、委員会・チームの連携に努めました。
- (2) 医療関連感染サーベイランスを実施し、毎月集計したデータは感染対策委員会で共有し、必要に応じて現場への介入を行いました。
- (3) 衛生管理者と連携し、職業感染の予防・経過観察が必要な職員に対するフォローを行いました。
- (4) 法人内における感染対策に関連する相談の対応、問題解決のための介入・支援を行いました。
- (5) 法人内で発生したアウトブレイクに介入し、現場の支援・教育を行いました。
- (6) 周辺の医療・介護施設や行政と連携し、地域の感染対に努めました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 感染対策に関わる研修会 参加
 - ① 川口市保健所主催「防護服着脱訓練」6月24日
 - ② 川口市保健所主催「新型インフルエンザ訓練」12月21日
 - ③ 埼玉県主催「疑似症サーベイランス研修」8月29日
- (2) 法人・法人外の教育・学習会講師活動
 - ① 法人内: 2回
 - ② 法人外(老人保健施設): 1回

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 組織的に情報を共有・把握し、現場へ早期に介入できるよう、各組織・現場との連携体制を見直し、整備します。
- (2) 感染症の流行、災害時の感染対策のための整備を行います。

看護部

看護部長 見川葉子

1. 急性期・回復期・緩和ケア看護の充実に取り組みます。“地域でより健康的に暮らし続ける”患者・地域住民へ向けたHPHの前進をさせます。

救急診療委員会や関わる看護職員を中心に、救急処置に関わる学習会を行う事ができました。また、回復期リハビリテーション病棟では、リハビリ科職員と共に重症者でも日常生活機能評価が改善することにこだわったケアを行い、計画的に看護職員も配置することで回復期リハビリテーションⅠにレベルUPすることができました。また、緩和ケア病棟では、退院後の患者様宅に訪問して、患者様の痛みや不安、ご家族が心身ともに患者様を支援できる状態であるのかを確認して、継続看護にもこだわった事例をたくさんつくることができました。

2. 埼玉協同病院看護部ラダーの活用を促進し、(看護職員)一人ひとりの到達度に合った看護展開をすすめます。

埼玉協同病院看護部は、外来/病棟/手術室各部門ごとにラダーを作成し、新入職員だけでなく中途入職者にも配属部門での看護技術を確実に身に付けられるようにしています。

2019年度に新たに組み込んだ透析室看護科、地域連携看護科、看護育成課では、作成と試用が進んでいます。各部門の特徴を押し出しつつ、全ての看護職員が一定レベルを超えた看護提供が出来るように今後も進めていきます。

3. 「民医連綱領」と「民医連のめざす看護とその基本となるもの」の学びを看護実践に結び付けて考えられる看護集団を作ります。

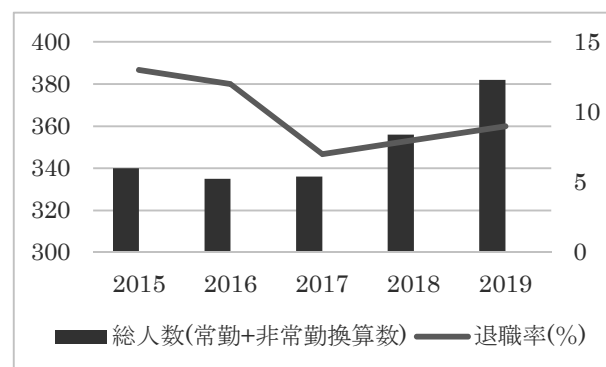
看護全部門で、「民医連綱領」と「民医連のめざす看護とその基本となるもの」の学習を進める事ができました。「民医連のめざす看護とその基本となるもの」の学習では、現場看護長が学習時のチューターとなり、私たちが実践している看護と民医連綱領や憲法と照らし合わせて考える学習ができました。「民医連のめざす看護とその基本となるもの」をテキストに私たちがこだわっている看護「患者の立場に立つ・患者の要求から出発する・患者とともにたたかう」民医連の看護「三つの視点」を現場実践から再確認することができました。

4. 効率の良い業務変革、働きやすい職場作りを進めます。

業務内でリシャッフルを効率良く行い、残業無の整備やチームワーク再構築につながる取り組みができました。稼働時間は全体では微増でしたが、大きく減らすことができた看護部門もありました。看護ケアを充実させながら業務の効率性を上げる為の工夫を多くの看護部門で取り組みました。看護長・主任

合同会議も行き、看護部マネジメント力UPにつなげる取り組みを行いました。

【看護職員数と退職率の変化】



～私たちは、すべての人が人間らしく、その人らしく生きていくことができ、あらゆる場で無差別・平等の看護が実践できることを目指しています。患者や医療を取り巻く社会変革を目指し、様々な活動に取り組んでいます。～

【2019年7月30日～8月1日 第43期辺野古座り込み

医療班支援報告 C5病棟看護長 浅香眞由美】

支援を通じて、これまでの辺野古新基地建設の経緯や現状を聞き、新基地建設は政府が言っているような、沖縄県民の負担軽減や安全などの配慮とはまったくかけ離れていると知りました。辺野古新基地が建設される事で軍事強化に繋がり、実際とは異なる正当性に隠れ、新基地を建設し、軍備強化を進めていく政策に怒りを覚えました。

基地問題についてははっきりとNOを示している沖縄の民意を無視して、なぜ新基地の建設が進められているのかまったく理解する事ができませんでしたが、現地に行きその思いは更に強くなったように思います。新基地建設による悪影響は、環境破壊や人々の分裂まで引き起こしている現状を聞き胸が痛みます。

医療班(救護)支援に行く前は、座り込みでいったいどれだけ反対行動に影響を及ぼす事ができるのか、と考えていましたが、非暴力な方法で訴え続ける事に意味があって、国が辺野古新基地建設で成し遂げようとしている様々な誤った事実、最大の反対を示す思いが込められている行動であると理解できました。

これまでも、沖縄の方たちは戦争や基地問題で多くの我慢を強いられてきました。同じ事が繰り返されないように、これからも沖縄の人々に思いを寄せて自分ができる事を考えていきたいと思っています。



外来看護科 I

看護副部長 岡田美智子

1. 職務、役割

内科急患、救急、内視鏡・放射線画像検査、整形外科、泌尿器科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、自己血貯血外来を担当しています。それぞれの分野で、連携し合いながら外来運営がスムーズにいくよう努めています。

2. 体制 58 名

職種

看護師	40名
助産師	1名 (小児救急認定看護師)
准看護師	8名
看護助手	5名
視能訓練士	4名

3. 概要、特徴、特色

- (1) 救急搬入患者と Walk in で来院する患者を24時間体制で受け入れました。
- (2) 緊急で発生する内視鏡検査、放射線検査も待機体制で実績増に繋がりました。
- (3) 2019年度、眼科手術が再開しました。
- (4) 総括
 - ① 救急看護の質の向上のため、救急看護ラダーを作成し、評価を開始しました。
 - ② 外来トライアージが適切に行われるよう、毎月アンダートライアージ事例について、その根拠を継続してスタッフへフィードバックしました。
 - ③ 眼科手術の開始に伴い、診療科に対応できるスタッフを入院棟と連携しながら育成しました。また、緊急検査や処置に対応出来るよう体制を整えました。
 - ④ 災害に備え、各診療科で活用できるアクションカードを作成し、外来でのトライアージエリアを確立しました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 埼玉民医連看護学会の発表(P187参照)
- (2) 研修関連
 - ① ICLS資格取得
 - ② 埼玉県看護協会 災害ナース研修
 - ③ 看護キャリ3研修・看護キャリ4研修

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 外来業務を安全に円滑に行っていけるよう、スタッフ間のコミュニケーション力を高めていくと共に、部門内での各業務への支援体制を強めていけるよう、スタッフ育成を行っていきます。
- (2) 気になる患者をSDHカンファレンスにつなげ、支援できる組織作りを構築します。

外来看護科Ⅱ

看護長 栢森恵子

1. 任務、役割

専門外来(慢性疾患)・予約内科と、健康増進センターを担当しています。

専門外来・予約内科は、糖尿病科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・神経内科・精神科・脳神経外科・神経内科・甲状腺科・腎臓内科・血液内科があり、慢性期の療養指導から終末期支援を行っています。

また、健康増進センターでは、健診者の保健指導活動を行っています。

2. 体制 22名

職種

保健師	13名
看護師	8名
准看護師	1名
助産師	(2名)
糖尿病認定看護師	(1名)
日本糖尿病療養指導士	(3名)
初級禁煙支援士	(1名)
中級禁煙支援士	(1名)
肝炎コーディネーター	(2名)

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

①保健予防活動

特定健診の保健指導対象者に対し、健診時にお誘いを行い、当日保健指導を実施しました。2019年度は165名と昨年度より少なかったため、新規保健指導対象者獲得目的で、日曜健診も当日保健指導を開始し、保健指導を受ける機会を広げています。

②慢性期から終末期の看護

慢性期の療養指導として、看護外来枠を設け、フットケア、インスリン手技チェック、透析予防、神経障害チェック、禁煙外来のすすめ、アルコール支援介入などを行っています。

中断患者、退院後の外来受診患者、血糖コントロール不良患者、通院困難になってきた患者、がん・悲がん(心不全・肝硬変・COPD)のBSC方針となった患者等に対し、気になる患者カンファレンスを週2回実施しています。SDHの視点でカンファレンスを行い、問題の背景には、幼少期の教育や、食事、仕事、経済状況などが潜んでおり、その事を理解し、患者に寄り添った個別の支援が必要であることを共有し、具体的なプランを検討し、多職種連携・外部連携につなげています。

(2) 2019年度実績(2019年4月～2020年3月)

特定保健指導	開始者数	289人
	最終評価者数	165人
禁煙外来治療開始者数		34人
看護外来	糖尿病合併症管理料算定者数	313人
	フットケア(爪切り)実施者数	440人
	インスリン手技チェック実施者数	758人
	誕生月神経障害チェック実施者数(2019年4月～2020年1月)	180人
	透析予防指導管理料算定者数(2019年4月～12月)	428人
	アルコール支援介入開始者数	4人
糖尿病教室(はじめ外来)参加開始者数(2019年4月～12月)		24人
緩和カンファレンス実施者数		68人
気になる患者カンファレンス実施者数		178件
外来呼吸リハビリテーション開始者		20人
居宅介護事業所紹介		9人

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表(P180参照)

11月	・お元気ですか訪問&何でも相談会
2月	・埼玉民医連看護学会発表 ・第2回埼玉協同病院医療活動交流集会2演題

5. 今後の展望・次年度に向けて

(1) 保健予防活動

- ① 特定保健指導の対象者のヘルスプロモーション行動を促進し、保健指導の中断率を下げられるよう、対象者の個性に応じた指導を行います。
- ② 75歳以上の特定健診者のフレイル問診から、個々の健康課題を把握し、必要な指導・支援を行います。
- ③ 地域住民のニーズを探り、保健予防教室や外来保健室などを開催します。

(2) 慢性期から終末期看護

- ① 療養・生活状況を捉え、必要な支援につなげ、問題解決するまで継続的にフォローをする運用(カンファレンスの効果的な運用、電子カルテの活用)作りをします。
- ② 他部門連携、外部連携を促進し、専門職チームとして情報共有・協働により、タイムリーな支援を行います。
- ③ 外来の専門機能を高めるために、新規紹介をうけられるよう逆紹介を進めます。

C2病棟看護科

看護長 武智子

1. 任務、役割

C2病棟は60床です。消化器内科疾患と一般内科、耳鼻科の患者様を中心に医療の提供を行なっています。食道から大腸、膵胆肝系の侵襲の高い検査や膵石治療にも取り組んでいます。悪性疾患などの患者様も多く、化学療法に移行する患者様、また緩和ケアへ繋ぐ役割も担い、認定看護師の協力を得ながら、疼痛緩和やQOLの向上、患者様・ご家族の方の精神的援助が出来るように日々努めています。耳鼻科では全身麻酔下での手術も開始され、専門性を身につけながら新たな疾患にも対応しています。また、独居高齢者や老老介護への介入も増えているため、入院時から多職種で退院支援に取り組んでいます。

2. 体制 37 名

職種

保健師	9名
看護師	28名

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

- ①患者や看護師にとって安心・安全な医療を提供しました。
- ②消化器疾患、耳鼻科疾患を中心とした治療・看護を統一して行い、スムーズかつ安全な医療と看護を提供しました。
- ③HPHに取り組み、ヘルスプロモーション活動の推進を行いました。

(2) 実績

新入院患者数	136.7人
入院延べ患者数	1,285人
平均在院日数	9.2日
病床利用率	83.5%

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1)各診療科における検査・治療をより多くの患者様に提供できるよう職員の知識と対応力の向上を目指します。
- (2)がん患者ががんと診断されたときから患者様の意向に沿いながら緩和ケアが受けられるように支援します。
- (3)各診療科のクリニカルパスの運用により、適宜、見直し修正をおこないながら標準的医療を維持し、患者様にわかりやすい説明を行います。
- (4)地域へ退院される患者様に対し、情報を提供し、継続した支援ができるようにします。

C3病棟(産婦人科)看護科

看護長 小峰将子

1. 任務、役割

- (1)1983年の産婦人科開局以来、「地域が産み・育てる」をスローガンに私たちは地域に根ざした活動为目标に掲げ、組合員さんや地域の声、社会のニーズに耳を傾けながら活動を展開しています。
- (2)産婦人科病棟、外来では開設以来当院を利用している妊婦さんや婦人科疾患を持った患者様の症状、赤ちゃんのことや育児のこと、不安や悩みなど24時間の電話対応を行っています。また、スタッフ同士の情報共有をすすめ、妊娠・出産・育児の期間や手術前後の期間を通して一貫したサポートを行っています。今では一般的になった新生児家庭訪問は川口市の保健事業の1つとして委託され14年になります。地域との連携も密に行っているため、自宅に帰ってからも地域のサポートを安心して受けていただいています。
- (3)病床数 40床。
- (4)うぶ声学校の5課は産後お母さんの同窓会がしたいという声から始まり、今では病院全体を巻き込んで子育て教室やサークル活動にまで発展しています。
- (5)小児虐待チームには産婦人科のスタッフも参加し情報共有を行っています。現在も産婦人科から小児科へと継続した支援につなげる事ができています。今後も安心して地域で過ごせるよう切れ目ない支援を継続していきます。

2. 体制 35 名

職種

助産師	23名	(うち保健師有資格者7名)
看護師	5名	
准看護師	1名	
看護助手	2名	

(1) 資格取得

日本助産評価機構認定 アドバンス助産師	9名
NCPR	22名
ALSO(産科救急)取得	4名
BLS取得	6名
ICLS取得	3名
J-CIMELS	3名

3. 概要、特徴、特色

(1) 妊婦、褥婦に向けに行っている教室

- ①うぶ声学校(初産婦対象)
- ②経産婦うぶ声学校(経産婦対象)
- ③帝王切開うぶ声学校
- ④料理教室(妊婦対象)
- ⑤孫と一緒に広場(妊婦夫婦の両親対象)
- ⑥ヨガ(妊婦対象)
- ⑦うぶ声5課(出産後の同窓会)

(2) 実績

新入院患者数	1,169人
転入数:	20人
入院延べ患者数	9,453人
1日あたり患者数	22.7人
平均在院日数	8.7日
平均占床率	64.1%
分娩件数	532件
帝王切開	108件

(3) 総括

- ①2019年11月24日に産婦人科開設以来26,000例目の赤ちゃんが誕生し、お祝い会を開催しました。
- ②2013年度以来となる久しぶりの助産師学生の実習受け入れを行い(助産学校1校、看護学校5校)、医療従事者の人材育成に貢献することができました。
- ③虹の箱の投書や患者満足度アンケートの結果から、切迫流早産患者様のチェックリストや入院案内を作成し、統一した看護の提供につなげることができました。
- ④平和のタペストリーを作成し、平和のための埼玉の戦争展に展示。全日本民医連第7期平和学校参加者からの学習会。民医連綱領学習会を12回開催。
- ⑤教育・SDH・平和・看護ケア・業務改善などのテーマで活動内容を多方面に広げることができました。

(4) 小児虐待対策チーム(P177参照)

4. 学術・研修、講演、研修会等の記録

(1) 講演会活動等(P188参照)

7・8・11・12・1・2月	命の授業
----------------	------

(2) 各種参加

6・9・11月	全日本民医連第7期平和学校(3クール)
7・8月	特定分野(助産)における保健師助産師看護師実習指導者講習会(計2回)

C3病棟(小児科)看護科

主任 田中美江

1. 任務、役割

C3小児科は、小児科外来と病棟を担当しています。新生児から中学3年生までの小児内科疾患の患者様を中心に医療の提供を行っています。病棟では急性期疾患の他、食物経口負荷試験などの検査入院も行っています。また、小児の整形外科や耳鼻科の手術患者様の受け入れや、成人のSAS入院の受け入れも継続しています。小児科では、地域に選ばれる小児科を目指し、子育て支援が出来るように日々努めています。

2. 体制 12名

職種

看護師	10名
准看護師	1名
病棟保育士	1名

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

- ①地域に選ばれる小児科を目指し、慢性疾患、長期に療養を必要とする患者様のフォローに力を入れてきました。紹介患者様や救急依頼、他科入院の受け入れを継続して行い、8月は整形や耳鼻科の手術入院も多く、占床率60%以上に達することができました。今年度、働き方改革にも力を入れ、業務の無駄をなくし、業務負担や残業を減らす取り組みも行うことが出来ました。
- ②HPH・SDHの視点で地域医療活動を行い、チーム医療の質の向上にも努めました。小児虐待対策チームの活動を継続し、地域連携の強化や、院外へも活動の幅を広げることができました。また、子育て支援では、多職種連携による「子育て教室」「子育てカフェ」「ベビーマッサージ」「ベビーランチ」「命の授業」「小児喘息教室」の継続、新しい取り組みとしては、前向き子育てプログラム(トリプルP)を用いた教室を保護者向けに開催することができました。

(2) 実績

- ①新入院患者数 471人
- ②入院延べ人数 1878人
- ③平均在院日数 4.2日
- ④平均占床率 37.6%

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表(P180参照)

5月	・埼玉協同病院における小児虐待対策チーム発足後1年間の報告
10月	・乳幼児の親を対象とした禁煙指導

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 子育て世代へ向けたインターネットを利用した地域利用者への働きかけについて検討し、子育てに悩みを抱えている親に寄り添い、子育て支援をしていきます。
- (2) 前向き子育てプログラム(トリプルP)や、子育て支援に関連した教室を継続して行っていきます。
- (3) 紹介患者様や救急依頼、他科入院の受け入れを積極的に行い、病床利用率増加に努めていきます。多職種と連携し、質の高い医療を提供していきます。

C4病棟看護科

看護長 英岡和香子

1. 任務、役割

癌から生じる痛みをはじめとする体のつらい症状や、患者様と御家族が病気とともに生きることの心のつらさが和らぐよう、多職種チームで連携し支援しています。残された時間をその人らしく過ごしたい場所で過ごせるように、症状が軽快されたら在宅調整の支援を行ったり、患者様とご家族の要望を叶えられるよう支援を行っています。

2. 体制 13 名

職種

看護師	12名
緩和ケア認定看護師	1名

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

新入院患者数	246人
転入院患者数	91人
退院患者数	338人
死亡退院数	231人
入院のべ患者数	464.6人
1日あたりの患者数	15.2人
平均在院日数	17.6日
平均占床率	67.6%

(2) 特徴

地域から求められる役割として、緊急入院を積極的に受け入れてきました。地域連携を円滑にするために、地域連携カンファレンスを実施しつながりを深めています。

(3) 特色

今年度より退院後訪問を開始しました。年間を通じ15人(19回)の訪問を行う事が出来ました。患者様からも知っているスタッフが来てくれて安心という言葉や訪問看護のスタッフからは、訪問時にスタッフが同席することで情報提供書では得られない手技や情報が得られると評価を得ることが出来ました。次年度も継続して行って行きたいと考えています。

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) グリーフケアの充実(遺族会・遺族へのアンケートの調査)を図ります。
- (2) 在宅調整力を高めるため退院後訪問の充実を図ります。
- (3) 班会を利用した ACP を広める活動の実施を図ります。

C5病棟看護科

看護長 浅香真由美

1. 任務、役割

病床数50床。主に肺癌・気管支喘息・肺炎・肺気腫・慢性呼吸不全などの呼吸器疾患患者様と、大腸ポリープ・糖尿病・脳梗塞・尿路感染症等の内科患者様が対象で、肺癌の化学療法、肺炎治療、HOT導入、気管支鏡検査、糖尿病コントロール、大腸内視鏡検査等を行っています。

2. 体制 41 名

職種

保健師	6名
看護師	31名
看護助手	4名

3. 概要、特徴、特色

(1)総括

①呼吸器チーム、DMチーム、ケモ・緩和ケアチームの活動を通して質の向上に努めました。高齢の方が多く、退院調整力と、再入院予防に向けた指導力の強化に向け学習し、情報収集・記録ができるようになりました。カンファレンスなどの見直し・改善を通して多職種連携を促進しました。認知症や終末期における身体抑制・代替栄養・延命治療などの倫理的課題に対してカンファレンスを多職種で行いました。

②呼吸器チームでは、RST回診を通して呼吸器管理やBAP予防の介入を行い、人工呼吸器の使用法や人工呼吸器のマスクについて、ポジショニング、酸素療法、弾性包帯の巻き方、BAP予防についての学習を行いました。

③DMチームでは、糖尿病患者様のインテークを実施し多職種カンファレンスを行いました。課題と介入方法を明確にして、継続した支援ができるよう外来部門との連携を強化しています。

④ケモ・緩和ケアチームでは、ケモ入院の患者の初回導入より関わり、退院後にもケモ室への訪室や担当業務を通して、継続した治療や看護介入ができるように活動を継続してきました。また、癌病名のある患者様を緩和カンファレンスで共有し、身体的、精神的苦痛の緩和や、緩和ケア病棟への転科がスムーズに進むよう情報提供を行いました。化学療法の手順書を改訂し、化学療法についての学習会実施を通して対応できる職員を増やしました。

(2)実績

新入院患者数	112人
入院延べ患者数	1,276人
平均在院日数	11.1日
病床利用率	84.4%
気管支鏡検査実施数	79件/年
DPC I・II 期間内の退院平均	65.6%
医療看護必要度	平均30.8%

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

化学療法、麻薬の使用法やPCAポンプの使い方、症状緩和について学習を行いました。

5. 今後の展望・次年度に向けて

(1)DOC期間Ⅱまで退院75%以上、医療看護必要度30%以上の継続を目指し、退院目標の明確化と各職種が具体的に介入できるよう、カンファレンスを有効活用します。また、緊急入院受け入れを増やし、空きベッドの有効活用に対応できるよう、柔軟なベッド調整を行います。

(2)呼吸器チーム、DMチーム、ケモ・緩和ケアチームを中心に、職員の育成と看護課題の改善に努めます。

D2病棟看護科

看護長 佐藤笑美子

1. 任務、役割

病床数57床です。変形性関節症や脊椎、骨折や外傷などの疾患が多く、手術や急性期の治療・処置を必要とする患者様の受け入れをしています。また、周手術期看護を中心とした病棟業務を行っています。

2. 体制 36 名

職種

保健師	1名
看護師	31名
准看護師	1名
看護助手	3名

3. 概要、特徴、特色

(1)実績

新入院患者数	平均78.3人
延べ入院患者数	17,990人
平均在院日数	17.5日
病床利用率	86.7%
手術件数	992件
死亡数	1件

(2)総括

- ①平均在院日数17.5日、月平均入院数78.3人となりました。老人保健施設みぬまとの連携会議を開催し、入所へのスムーズな受け入れ方法を確認しました。他施設への紹介も促進し、多くの新患を受け入れました。また他職種参加のカンファレンスを活用し在院日数短縮につながりました。
- ②電子パスの新規作成と見直しを実施しました。
- ③ディンクルを活用し褥瘡改善率の改善に努力しました。マットの学習会をしてマットの変更を行い、セーフマスターへのリスク評価入力などを徹底しました。
- ④整形外科での入院患者の多い疾患をもとに疾患チームで活動しています。学習会企画やパス見直し、手順書の見直しを行いました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1)整形外科病棟の周手術期看護のレベルアップを図ります。
- (2)多職種で入院時から関わりを持ち、患者様の意向に沿った退院支援を行います。
- (3)さらなる在院日数の短縮と入院数の確保を行います。

D3病棟看護科

看護長 松田昌一

1. 任務、役割

- (1)病棟数は55床です。
- (2)消化器悪性疾患(消化器がん・呼吸器がん・乳がん等)や良性疾患(胆石・虫垂炎・腸閉塞・鼠径ヘルニア等)の手術療法を受ける患者様の看護に取り組んでいます。
- (3)化学療法室と連携して術前・術後の化学療法を受ける患者様を受け入れています。
- (4)整形外科疾患(上肢下肢の骨折・大腿骨頸部骨折・脊椎疾患)の手術療法を受ける患者様の看護に取り組んでいます。

2. 体制 35 名

職種

保健師	4名
助産師	1名
看護師	25名
認定看護師	2名 (がん化学療法、緩和ケア)
看護助手	3名

3. 概要、特徴、特色

(1)実績

入院患者数	3,113人	(111.5人/月)
入院延人数	16,225人	
平均在院日数	11.6日	
病床利用率(占床率)	81.5%	
手術件数	710件	(緊急134件)
※外科系腹腔鏡下手術の割合:39.4%		

(2)総括

- ①医師やメディカルスタッフと協力して入院患者の医療・看護に取り組みました。
- ②がん医療においては、がん関連認定看護師を中心に、外科、乳腺外科のキャンサーボードを定期開催し、多職種での情報交換・共有により切れ目のなく取り組みました。
- ③整形外科疾患の患者を昨年度より多く受け入れ、周手術期・退院指導を含めた医療・看護に取り組みました。(整形外科入院数228件)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)各種参加

6月	第24回日本緩和医療学会学術集会
7月	第17回日本臨床腫瘍学会学術集会
9月	第4回日本がんサポーターズケア学会学術集会
10月	第57回日本癌治療学会学術集会
2月	第34回日本がん看護学会学術集会

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1)高難易度の手術に対応できる周術期看護のスキルアップを目指します。
- (2)多職種と協働し、術前から退院に向けた患者教育の充実を目指します。
- (3)クリニカルパスの評価・修正を進め、適切な治療・看護を提供します。

D4病棟・HCU看護科

看護長 大森有紀

1. 任務、役割

D4病棟はHCU4床と、循環器・糖尿病・腎臓病・脳梗塞や脳出血などの血管障害の患者様が入院されている一般病床46床の病棟です。多職種で患者様に関わる業務体制を整え質の向上を目指しています。また、医師の初期研修の場として、医師、看護師が共に学び合う環境作りを目標に活動しています。

2. 体制 37名

職種

保健師	2名
看護師	35名

3. 概要、特徴、特色

(1)総括

HCU病棟として、消化管穿孔など外科の術後で重症管理が必要な患者の受け入れを行い、術後管理が適切に行えるよう業務基準の作成を行いました。重症治療管理の他、身体的・精神的ケア、早期リハビリ介入、不安が大きい御家族への関わり、身寄りのいない患者様への治療方針決定を多職種で行い、退室後の退院支援へとつなげました。

また、高齢者の多い一般病床では、患者様や家族の意向をうかがいながら、病気や介護とどのように向き合うか、どこで最期を迎えるかを考えていただけるような関わりを行ってきました。糖尿病や腎臓病などの慢性疾患を抱えた患者様には、病気を理解した上で日常生活を送ることができるよう指導を行いました。

(2)実績(月平均)

入院患者数	112.2人
入院延べ人数	1255.9人
平均在院日数	9.9日
病床利用率	91.6%

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1)HCUを担当するために必要な業務の支援と評価
- (2)全職員・他院所に向けたBLS、ICLSの指導

5. 今後の展望・次年度に向けて

急性期病院として、救急患者を一人でも多く受け容れられるような体制作りを継続します。また、在院日数の短縮と病床稼働率を上げる取り組みを多職種で行います。ひとりひとりの患者様を大切にしながら、多様な疾患や背景、高齢化社会に対応できる職員の育成に努めます。

D5病棟看護科

看護長 福田友美

1. 任務、役割

脳血管疾患、運動器疾患、急性期治療後の廃用症候群の患者を中心に、回復期リハビリテーションを提供し、障害受容から地域社会復帰に向けた支援を行っています。

2. 体制 34 名

職種

医師	2名
保健師	1名
看護師	21名
介護福祉士	9名
事務総合職	1名

※上記以外: 社会福祉士2名、薬剤師1名、管理栄養士1名
理学療法士12名、作業療法士11、言語聴覚士6名(兼務)、歯科衛生士2名(兼務)

3. 概要、特徴、特色

チーム医療の展開により、患者、家族が安心して住み慣れた環境に戻れるよう、退院支援を行い、在宅復帰率が高い実績があります。2020年1月より、回復期リハビリテーション病棟入院料1を算定しています。

(1)実績

入院患者数	141人
転入数	153人
平均在院日数	54.9日
病床稼働率	94.6%
在宅復帰率	88.1%
重症患者回復率	72.4%
アウトカム評価(実績指数)	43.68

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

回復期リハビリテーション病棟協会 認定看護師研修受講

5. 今後の展望・次年度に向けて

回復期リハビリ入院料1の基準を維持する実績と、スタッフの育成を含む、質の向上を目指します。質の評価として、患者、家族満足度調査を実施し、業務改善、リハビリテーションの質、ケアの質の改善につなげていきます。

手術看護科

看護長 熊木直美

1. 任務、役割

手術室では安全で安楽な周術期の看護を展開することを目標に、病棟や多職種と連携し予定手術はもちろん緊急手術にも24時間対応しています。入院、さらに手術が必要と言われた患者様やご家族の精神的なストレスや不安を軽減できるよう外来から継続して関わっています。手術では正確な手術介助を行いながら患者様の状態を注視し、手術患者様の代弁者として寄り添った看護を行っています。

2. 体制 30 名

職種

皮膚・排泄認定看護師	1名
手術看護実践指導看護師	1名
保健師	1名
看護師	21名
准看護師	1名
看護助手	5名

3. 概要、特徴、特色

今年度、外科では難易度の高い胆肝膵の長時間手術や腹腔鏡手術を多く行い、患者様や心配するご家族に寄り添い不安軽減に努めてきました。整形外科では日本に数少ない人工膝関節手術用ロボットを導入したことで、看護師も必要な知識や高い介助技術の習得に努めました。眼科では入院手術(白内障、緑内障)開始にあたり、外来や病棟とシミュレーションを行うなど連携し、スムーズな導入となりました。手術件数増加に伴い、麻酔科外来受診件数も増える中、不安や個別の思いを汲み取り計画を立案し、看護に繋げています。水曜日のペイン外来も開始当初の倍以上の受診があり痛みを苦しむ患者様の話を傾聴し一緒に少しでも楽なる生活スタイルなどを考えています。

また今年度は働き方改革に伴い、スタッフの疲労軽減と残業削減の観点から時差出勤体制と早番勤務も導入しました。

(1)実績(前年比)

各科手術件数	2,735件(107.1%) 外科695件、整形外科1,482件、産婦人科303件、透析科49件、耳鼻咽喉科85件、眼科121件
全身麻酔手術	2,067件(106.3%)
術前訪問件数	1,803件/外来手術は対象外
術中訪問件数	153件/3時間以上の外科手術対象
術後訪問件数	1,220件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(P180参照)

11月	・自己血採血の安全管理
2月	・A病院手術室におけるラテックスアレルギー対策への取り組みーLAハイリスクグループ判定基準の導入を通じてー

(2)講演会活動等(P188参照)

7月	・安全な輸血実施について
12月	・自己血採血と豆知識①
1月	・埼玉県合同輸血療法委員会ー看護師部会の活動と展望
2月	・安全な輸血実施を目指した看護師への教育活動

(3)著書・論文等(P194参照)

臨床輸血看護師の役割ー臨床検査技師との関わりを中心にー

5. 今後の展望・次年度に向けて

急性期病院の手術室として、予定手術だけでなく1件でも多くの緊急手術を受け入れ、患者様の希望に応じていけるよう体制を整えていきます。2020年度は麻酔科を含む各科医師の増員に伴い、手術枠が増加しました。より多くの手術を6室フル稼働させ、安全に効率よく行っていけるよう、手術室スタッフのマネージメント教育も大きな課題です。件数が増えても質を維持し、多職種との連携をさらにすすめて誠実で温かな看護を実践していけるよう努力していきます。

透析看護科

看護長 吉田暁子

1. 任務、役割

透析室では入院透析と外来維持透析を行なっています。入院は糖尿病外来や腎外来からの予定導入、症状悪化による緊急透析、他施設の維持患者で入院が必要な場合の透析に対応しています。維持患者には合併症予防のため、食事・水分管理や日常生活に対しての患者指導を行なっています。シャント不全のシャント拡張術にも対応しています。

2. 体制 17名

職種

看護師	10名
准看護師	2名
臨床工学技士	4名
事務総合職	1名

3. 概要、特徴、特色

(1)実績

年間透析件数	922件
新規透析導入数	36人
外来透析管理患者数延べ	695人
入院透析管理患者数延べ	229人

(2)特徴

- ①急性期および透析導入病院としての役割として、緊急透析患者の対応、糖尿病外来・腎外来と連携し、透析導入患者への生活指導を実践しています。
- ②エコー下での穿刺の技術の習得や、カテーテル留置患者へのケアなど、安全で安心な透析治療を提供しています。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)埼玉透析医学会参加

(2)透析医療従事者研修参加

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1)透析看護外来で糖尿病や慢性腎臓病の患者・家族への指導を行い、透析導入病院としての役割を発揮していきます。
- (2)臨床工学技師や栄養士など他職種と連携し、維持透析患者への生活指導を実施し、安定した維持透析治療や看護を提供していきます。
- (3)シャントの管理や、穿刺(エコー下穿刺含む)の技術の向上を目指し、患者への苦痛の軽減に努めます。
- (4)防災訓練を実施し、災害発生時や緊急時に対応していきます。

看護育成課

看護長 四方田寿子

1. 任務、役割

看護育成課の役割は、人材の確保と育成、キャリアアップ支援と考えています。そして、私たちのビジョンは、民医連の看護の継承する事と、一人ひとりの看護観を実現する事を後押しすることだと思っています。

2. 体制 2 名

職種

保健師	1名
看護師	1名

3. 概要、特徴、特色

中学・高校生の職業(看護)体験・看護学生インターンシップの受け入れ等、看護職員確保に向けた取り組み、県連キャリアアップ委員会のもと、教育センターとしての機能を有し、中南部・北部・西部サポートセンターと連携しながら看護職員の育成を支援しています。

また、保健師として役割発揮ができる環境調整、看護学生実習受け入れ調整、副主任研修の企画運営、既卒入職者の確保と育成のために支援する役割も担っています。

(1) キャリ1(卒後1年目から3年目)研修

- ① シミュレーション研修・フィールドワーク研修を実践するにあたり、様々なワークショップデザイン(ホワイトボードミーティング・ワールドカフェ等)を用いて企画し、職場での実践能力を育てる機会となりました。
- ② 社会と健康がつながっている事に気づき、患者の抱える問題は、個人の問題・自己責任だけではない事を3年間の研修で学んでいます。

(2) キャリ2研修開催と既卒(中途)入職者への支援

- ① 病院見学者には病院の特徴や全体の雰囲気伝え、入職後は技術チェックの再確認を行い、配属病棟へ育成に向けての情報提供を行ってきました。
- ② 中途入職者研修と法人キャリ2研修内容をあわせて研修を企画し、育成の視点・認定看護師による講義と演習・民医綱領の実践内容を聞き、理解を深める事に繋がりました。
- ③ 副主任(新任者含む)を対象に、業務管理とナラティブアプローチ・キャリアデザインを考える研修を企画し、自己の経験から看護観を共有し、職務基準の内容を把握する事ができました。

(3) 看護学生実習受け入れ状況

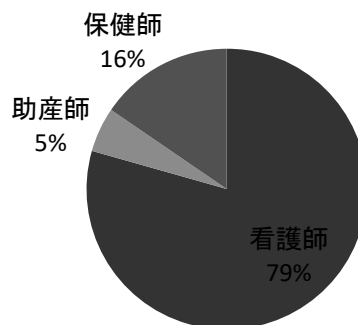
学校(県内・県外)	学校数	実人数
専門学校	3	123名
大学	4	103名
その他 助産専攻・実習指導者	3	8名

(4) インターンシップ受け入れ実態(4月～2月)

- ※新型コロナウイルスによりインターンシップ中止
※助産師インターンシップは低学年時に実施

	総数	内定決定率
看護師	77名	50.0%
助産師	5名	0.0%
保健師	15名	40.0%
計	97名	48.6%

職種の割合(2019年度総数)



4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 外部研修(看護協会等)
- (2) 著作・論文、寄稿等(P194参照)

職員のヘスプロモーションの取り組み

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 次年度のキャリ1卒後研修は、地域サポート事の特徴を活かした研修スタイルや方法を検討していくことが求められています。より、指導者側の育成が重要になるため、現場での情報収集を大事にして工夫していきたいと考えています。
- (2) 学生にとって魅力ある職場の一つとして選択されるよう、インターンシップ内容をさらに充実させ、民医連の看護を感じられるよう院内看護学生委員会と協力して取り組んでいきたいと思っています。
- (3) 既卒(中途)入職者も含めて、新人看護職員をチーム・病院全体で育成していることが実感できる教育風土を作り上げていきたいと考えています。

看護サポート

主任 高田千春

1. 職務、役割

看護業務支援として安全で快適な療養環境整備を看護師指導のもと、日々の業務を遂行します。また看護部門のメンバーとして、年間教育計画に基づき、職員の力量向上や能力開発に努めています。

2. 体制 48名

職種

看護助手 48名(うち常勤職員7名)

3. 配属先

整形外科外来・耳鼻咽喉科外来・手術室・内視鏡室・
C2病棟・C3病棟・C4病棟・C5病棟・D2病棟・D3病棟・
D4病棟

4. 概要、特徴、特色

看護師指導のもと、清潔介助、排泄介助、移乗移動介助、食事配膳下膳、ベッドメイクなど患者が安心して療養できる環境づくりをおこなっています。

5. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 接遇マナー研修
- (2) 医療安全(車椅子介助・移乗移動介助)
- (3) 感染対策学習(手指衛生とPPEの着脱・流行性感染症基礎知識と予防策・感染経路別予防学習)
- (4) 生活習慣病学習会(病気にならない健康な体づくり)
- (5) 内視鏡機器の取り扱いと故障予防
- (6) 放射線被ばく学習
- (7) BLS学習会

6. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 他職種との連携を強め、サポートの対応力向上を図っていきます。
- (2) 課題に積極的に取り組み、新たなことに挑戦していきます。

医局事務課

課長 我妻真巳子

1. 職務、役割

医局長を補佐し、医局運営課題を推進するため他職種と協力してよりよい医療が提供できるよう支援します。初期臨床研修医および後期研修医(専攻医)の対応、プログラムの管理と運営を行っています。

2. 体制 5名

職種

事務総合職 4名
非常勤職員 1名

3. 概要、特徴、特色

- (1) 医局事務課と教育研修室の統合により、新たに研修関連の課題など課や個々の業務整備を行いました。
- (2) 医局目標に対して、医局運営委員会や月例医局会議で進捗確認を行い、達成に向けて取り組みました。
- (3) 初期研修医、専攻医、既卒医師、大学派遣などの非常勤医師に対し、医局のオリエンテーション、診療支援(電子カルテ操作説明)を行いました。
- (4) 初期研修委員会・専門研修委員会のメンバーを中心に研修全体の管理を行い、研修修了に向けた支援(研修システムへの登録・確認)を行いました。
- (5) 基幹病院、関連病院等の更新申請や年次報告の作成を行いました。
- (6) 後継者の確保・育成に対して、初期研修医8名、専攻医5名、既卒医師4名の入職が決まりました。
- (7) HPHの取り組みでは、8月に東浦和駅で『駅前健康相談』を実施し、医師14名、他職種15名が参加し、相談件数27件と多数の相談を受けました。

4. 教育、研修、研究活動

初期研修担当者が JCEP(卒後臨床研修評価機構)のサーパーバイザーとして、病院審査に参加しました。

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 医局を中心に病院全体で後継者の確保・育成に取り組みます。全職員が専門研修プログラムへの理解を深めてもらえるよう、医局事務の役割を発揮します。
- (2) 初期研修医、専攻医や既卒医師に対してのオリエンテーションやレクチャーを計画的に行うような仕組みを構築します。また他職種と定期的に情報共有ができるシステムを検討します。
- (3) 医師の働き方改革に向けて、検討を進めます。

薬剤科

科長 福島 研

1. 任務、役割

- (1) 今年には手術室での医薬品の使用、払い出し、在庫管理の業務を開始しました。その他に、カルテの記録の改善、危険薬や注意を要する薬剤の安全管理の向上の取り組みを進めてきました。
- (2) 引き続きキャンサーボードに分担して参加し、レジメンの検討、作成、個々の投与設計などに積極的に関わり、がん患者指導管理料への算定に必要な業務本格的に進められ、的確で安全ながん診療に参画してきました。
- (3) CT、がん化学療法、NST、緩和、各診療科チームなどにも積極的に関与、病棟会議、病棟朝会への参加を進め、チームによる医療の質向上に努めてきました。
- (4) 茨城民医連城南病院の支援要請に応え、3名の薬剤師を1週間ずつ派遣しました。

2. 体制 29 名

職種

薬剤師	25名	(うち、非常勤薬剤師1名)
薬剤助手	2名	
事務総合職	1名	
事務スタッフ	1名	

(2) 資格取得

認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定薬剤師、外来がん治療認定薬剤師、※栄養サポートチーム専門療法士、抗菌化学療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、糖尿病療養指導士、介護支援専門員

3. 概要、特徴、特色

- (1) 採用医薬品数 1,426(2019年12月)
 - ①新規採用医薬品数 77品目
 - ②医薬品在庫率 56.32% (2018年は57.59%)
 - ③医薬品廃棄率 0.222% (2018年は0.136%)
- (2) 外来院内処方箋枚数 3,447枚
 - ①院外発行率 平均97.9%
 - ②入院処方箋枚数 58,566枚
 - ③注射処方総数(Rp) 317,156件
 - ④注射セット件数(Rp) 252,712件
注射セット率(Rp) 79.7% (2018年は81.5%)
- (3) 薬剤管理指導業務 他
 - ①入院服薬指導実人数 8,826人
(指導回数加算無含む 15,039回)
 - ②退院時薬剤管理指導数 4,732人

③病棟薬剤業務実施加算 18,042件

④薬剤総合評価調整加算 213件

(4) 無菌調剤件数

- ①TPN無菌調剤件数 567件(2018年は762件)
- ②外来化学療法件数 1,283件
- ③入院化学療法件数 187件
- ④無菌製剤処理(細胞毒性)件数 1,005件
- ⑤携帯型ディスポーザブル混注件数 14件
- ⑥院内製剤 32種に対応

(5) がん患者指導管理料ハ 113件

- ①がん化学療法レジメン管理数 173件
(新規作成18件 改定15件 削除0件)
- 1)呼吸器36、消化器2、大腸28、3)胃22、4)食道5、5)GIST3、6)膵・胆9、7)肝5、8)小腸1、9)乳腺21、泌尿器/10)膀胱4、11)腎2、12)前立腺2、13)悪性リンパ腫・造血器28、14)婦人科1、15)甲状腺1、16)MSI-High1

(6) TDM 62件

(7) DI業務

- ①質疑応答 185件
- ②DIニュース 12回発行(No.594～No.605)
- ③Phase4 市販後臨床試験4 副作用詳細調査 10例

(8) 安全管理業務

- ①副作用報告
全日本民医連27件、厚労省(PMDA)7件
- ②医薬品副作用被害救済制度 申請4件/認定2件
- ③プリアロイド報告 571件、日本病院薬剤師会へ報告 30件
- ④中毒対応件数 23件

(9) 抗菌薬適正使用支援チーム(P153参照)

(10) 薬事委員会(P170参照)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学会・研究等の発表(P180参照)

3月	・C型肝炎治療薬の評価
6月	・緩和ケア病棟におけるミルタザピンの有用性の検討
8月	・入院中の減薬が適切であったか ～退院後の実態調査～ ・フォーミュラリー運用後の実態調査 ～PPTフォーミュラリーを作成して～

(2) 各種参加

5月	第62回日本糖尿病学会学術集会
6月	第22回日本医薬品情報学会総会・学術大会
7月	第17回日本臨床腫瘍学会学術大会2019
9月	第8回日本くすりとう糖尿病学会学術集会
1月	日本クリニカルパス学会学術集会
2月	第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会

検査科

科長 金泉恵美子

1. 任務、役割

正しい治療につながるよう検体採取から結果報告まで精度管理の責任を担っています。院内の感染対策や抗菌薬適正使用、輸血療法にも大きく関わりをもっています。法人内各院所の一部検査を実施しています。

2. 体制 34名

職種

臨床検査技師 34名（うち常勤職員26名）

<専門資格>	人数
細胞検査士	5名
認定超音波検査士(消化器)	5名
認定超音波検査士(表在)	4名
認定超音波検査士(心臓)	2名
認定血液検査技師	2名
認定病理検査技師	1名

3. 概要、特徴、特色

(1)概要

生理学的検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、一般検査、輸血関連の検査、細菌学的検査、病理学的検査を行っています。

(2)実績

- ①生化学検査機器、免疫検査機器の更新を行ったと同時期にフェリチンの院内測定化を導入しました。
- ②院内での採血関連学習会を実施しました。
- ③病理システムを導入して適正な精度管理が行えるようになりました。

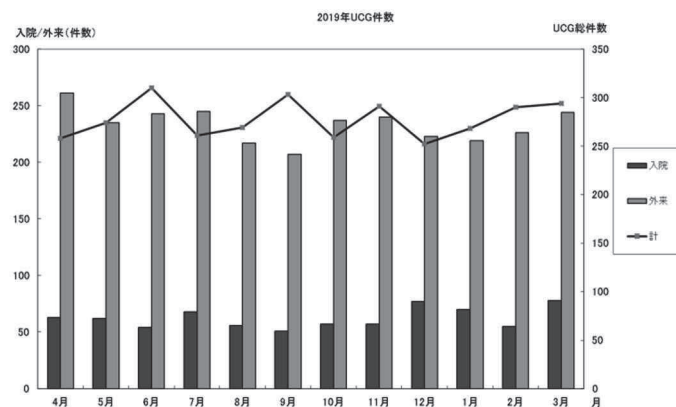
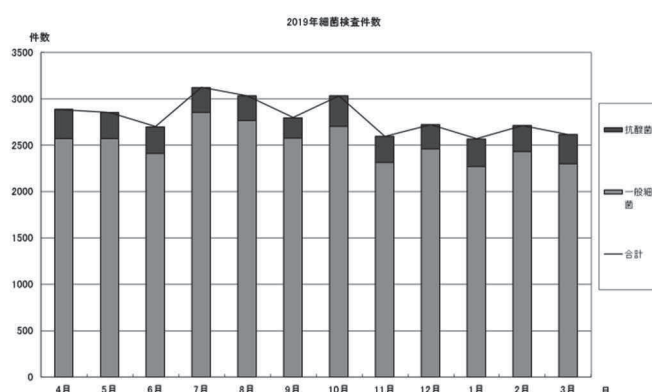
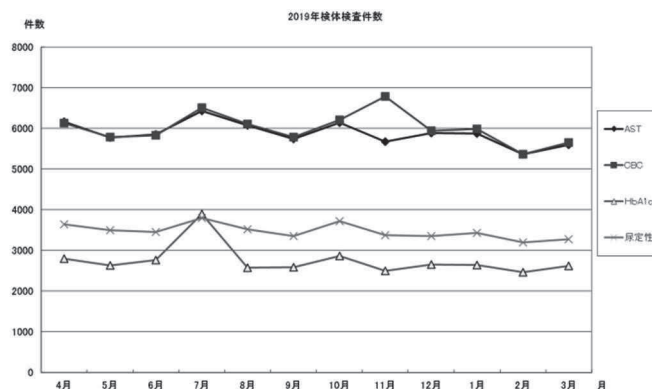
(3)臨床検査適正化委員会(P162 参照)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

埼玉県合同輸血療法委員会、埼玉県臨床検査技師会病理検査・細胞検査・輸血検査・生理検査研究班の活動に参加しています。

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1)病院リニューアルに向けて部門内の整備を行うとともに人材育成に力を入れていきます。
- (2)自然災害だけでなく感染症など緊急事態に対応できる体制を整えていきます。



放射線画像診断科

科長 松本茂

1. 任務、役割

一般撮影装置、マンモグラフィ撮影装置、X 線 TV 装置、CT 装置、MRI 装置、超音波装置、骨密度測定装置を有し、外来、入院、健診の検査に携わっています。

2. 体制 30 名

職種

診療放射線技師 26名 (うち常勤職員24名)
事務総合職 4名 (非常勤職員)

<認定・資格>	人数
放射線管理士	4名
放射線機器管理士	2名
検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	5名
超音波検査士(消化器)	1名
超音波検査士(体表臓器)	1名
乳腺超音波検査認定技師	2名
胃がん検診専門技師	1名
胃がんX線検診技術部門B資格	2名
胃がんX線検診読影部門B資格	2名
X線CT認定技師	3名

3. 概要、特徴、特色

(1)特徴

各診療科から依頼される各種検査および健診を中心に業務を行っています。画像を提供するだけでなく、診療放射線技師として医師による画像診断の補助に積極的に関わることを目指し、CT、超音波検査、上下消化管検査では技師コメントを読影レポートに記載しています。また、画像診断の結果が確実に診療に活かされるよう放射線技師が読影レポートの内容と受診状況を確認し、必要に応じて主治医に報告するフォロー体制を確立し、毎日の業務としています。

(2)施設取得認定

- ①医療被ばく低減施設認定
- ②マンモグラフィ検診施設・画像認定施設

(3)実績(2019年4月～2020年3月)

一般撮影	63,265
ポータブル撮影	10,648
乳房X線撮影	1,490
骨塩定量測定	1,430
CT	17,687
MRI	7,406
X線TV	2,088
血管造影	435
超音波	6,628

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)5月 心臓MRI教育プログラム 1名参加

(2)著作・論評・寄稿等(P194参照)

ZEXIRAの使用経験と検査被ばくの低減について

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1)放射線画像診断科症例発表会をはじめモダリティごとの症例検討会を開催し、読影知識向上に取り組んでいきます。
- (2)各検査の読影フォローを継続的に行い検査結果が確実に診療に活かされるように取り組んでいきます。
- (3)医療被ばく低減認定施設として、医療被ばくの適正化、病院職員への教育、医療被ばく相談に取り組んでいきます。

リハビリテーション技術科

科長 吉田知行

1. 任務、役割

医学的リハビリテーション(以下、「リハビリ」)として、個々の患者様に対し個人を尊重し、障害に対し心身の機能改善、生活の質向上に向け、チーム医療として取り組みます。

2. 体制 60 名

職種

理学療法士	29名
作業療法士	22名
言語聴覚士	6名
歯科衛生士	2名
事務総合職	1名

3. 概要、特徴、特色

(1)特徴

①回復期病棟

急性期治療が終了した回復期の患者様に対しリハビリを実施します。障害が残存しても質の高い生活が行えるようリハビリを提供します。

②整形外科病棟

入院直後及び手術後早期よりリハビリ開始します。退院後、能力が維持できるよう、退院後の生活を考えたリハビリを提供します。

③内科病棟

急性期の治療中及び治療後の患者様に対しリハビリを実施します。廃用症候群予防を行い、入院前の生活に戻れるようリハビリを提供します。

④外科病棟

手術前後でリハビリを実施します。術前 呼吸リハビリや術後の廃用症候群予防などを行い、入院前の生活に戻れるようリハビリを提供します。

⑤緩和ケア病棟

終末期の患者様に対しリハビリを実施します。患者様・ご家族様の希望をかなえられるようリハビリを提供します。

(2)実績

①一般病棟

- ・リハビリ介入率49.4%
- ・入院3日以内介入率72.4%
- ・入院7日以内介入率93.7%

②回復期リハビリ病棟

- ・実績指数43.48
- ・患者一人当たり 1 日提供単位数6.0単位

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(P180参照)

10月	・当院内科病棟における心不全症例の早期介入効果の検討
	・脳卒中患者の体幹機能とADLの相関分析と、体幹機能以外の何がADLに関係しているかの探索

(2)第8回埼玉県がんリハビリテーション研修会 4名参加

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1)回復期病棟では日常生活能力の改善と入院期間の短縮に取り組むとともに患者様の満足度向上に努めます。
- (2)内科・整形外科・外科病棟では早期リハビリ介入を行っていくとともに、早期退院が図られるようなチーム医療を行っていきます。
- (3)HPHの視点と治療に関わる歯科衛生士業務の構築を継続して行きます。
- (4)近隣施設との連携を強化します。
- (5)地域の方に対して運動教室を開催しフレイル予防を行います。

食養科

部責任 吉田順子

1. 任務、役割

食を通して「身も心も養う」という理念に基づき、チーム医療の中での役割を發揮し、入院患者様への食事提供や栄養相談、外来や在宅での栄養相談、地域での健康班会や料理教室を行っています。また、各世代ステージに合わせた食生活支援(各種教室等)を院内外で行っています。

2. 体制 43 名

職種

管理栄養士	14名	(うち常勤職員10名)
栄養士	1名	
調理師	15名	(うち常勤職員13名)
非常勤職員	13名	(調理補助13、事務職1)

3. 概要、特徴、特色

(1)実績

外来食事相談件数	3,921件(月平均327件)
入院食事相談件数	1,954件(月平均163件)
集団食事相談件数	142(月平均12件)
在宅食事相談件数	1件
入院患者食数	276,047件(月平均23,004件)
選択メニュー	27,934件(月平均2,327件)
特別食加算の割合	月平均36.4%
1食あたり食単価	月平均294円

(2)活動内容

- ①NST回診 週2回
- ②乳児健診 週1回
- ③子育て教室 年4回
- ④離乳食教室・ベビーランチ 毎月1回
- ⑤うぶ声学校 月2回(食事・栄養面でのサポート)
- ⑥糖尿病はじめ外来 月4回
- ⑦疾患別教室(肝臓病・呼吸器疾患等)
- ⑧特定保健指導

(3)給食システム

安心、安全な食事を提供するために、ニュークックチルシステムを導入し、IH再加熱配膳カートを使用しています。

4. レストラン虹の森

病院直営のレストランとして、外来患者様・組合員さんなどへの食事・軽食等の提供や、福利厚生の一環として夜勤者・当直者の朝食・夕食の提供をしています。また、『埼玉県健康づくり協力店(注1)』として、地域の健康づくりも担っています。

営業時間 7:30～16:00

(1)体制 13名

職種

栄養士	1名	(左記、栄養士と同人)
非常勤職員	12名	

(2)運営会議

- ①体制 8名(うち、組合員4名)
- ②年間開催数 12回(毎週第3火曜日)

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1)栄養アセスメントからの早期介入で、絶食期間を減らし、低栄養状態のリスクを改善していきます。また、新設された加算を取りきるようすすめていきます。
- (2)病院リニューアルに向けて、給食システムの決定とそれに伴う業務改善を行い、業務の標準化を図ります。
- (3)新入職員、経験年数の少ない職員に対して、教育訓練を進め、民医連の職員として力を発揮できるようにします。

(注1)『埼玉県健康づくり協力店』とは、埼玉県が管理する健康増進を目的とした取組みのことで、一定の項目を満たした場合に認定されるお店です。

ME科

科長 岡本雪子

1. 任務、役割

- (1)安心して使用できる医療機器の管理をします
医療機器の専門職として点検・修理等、ME機器管理を通して安全性、信頼性の高い医療機器の提供をします。
- (2)医療機器に関する事故ゼロを目指します
予防保全やスタッフへの教育により医療機器に関連の事故を未然に防ぎ、機器関連の事故ゼロを目指します。
- (3)在宅療養をされる患者様へ支援します
在宅療養される患者様やご家族へ装置の使用方法的説明を行い安心して療養生活が送れるよう支援します。

2. 体制 11名

職種

臨床工学技士 11名

＜専門資格＞	人数
透析技術認定士	5名
3学会合同呼吸療法認定士	3名
第2種ME技術者	9名
医療機器情報コミュニケーター(MDIC)	1名

3. 概要、特徴、特色

(1)2019年度ME科月報

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
MEによる修理件数	5	12	4	8	5	11	27	21	8	19	9	12	141
メーカーによる修理件数	1	7	12	13	10	10	8	11	5	4	11	3	95
職員の不注意による機器破損件数	0	0	0	1	3	5	5	1	2	2	0	4	23
装置の不具合による事故件数	1	4	2	0	0	0	5	3	0	0	0	2	17
人工呼吸器(NPPV含)貸出件数	22	26	18	25	28	14	16	19	19	23	23	26	259
HOT指導件数	9	3	3	7	4	6	1	13	7	4	9	4	70
CPAP指導件数	1	3	2	4	3	3	1	2	4	1	0	1	25
在宅人工呼吸器指導件数	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	2	1	7
その他ME機器指導件数	5	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	9
ペースメーカ新規導入件数	2	1	2	4	2	0	3	1	1	2	0	0	18
ペースメーカ交換件数	0	2	1	0	0	3	1	3	2	0	0	2	14
自己血回収装置操作件数	0	1	0	0	0	1	2	0	3	2	0	0	9
神経モニタリング操作件数	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(P180参照)

12月	・カフェイン中毒患者への血液透析が奏功した1例を経験して
-----	------------------------------

(2)外部研修等

- ①日本消火器内視鏡技師学会への参加
- ②埼玉医科大学総合医療センター出向研修
- ③各種医療機器攻守会の参加
(人工呼吸器・シリンジポンプ・透析機器など)
- ④病床稼働率:94.6%
- ⑤在宅復帰率:88.1%
- ⑥重症患者回復率:72.4%
- ⑦アウトカム評価(実績指数):43.68

5. 今後の展望・次年度に向けて

医療機器に関する事故件数を削減できるよう努めます。在宅医療機器を使用している患者へ在宅訪問などを行い、自宅で安心して医療機器が使用できる環境を整えられるよう支援を行います。またさらなる専門知識を身につけ、救急に対応できる能力を身につけます。

環境管理課

課長 小野秀敏

1. 任務、役割

- (1) 院内の施設設備管理、警備業務、清掃業務、バス運行管理業務を各委託業者と協力しながら行っています。
- (2) 主な資格: ボイラー技士1級・2級、エネルギー管理員、危険物取扱者(乙4類)、大気関係公害防止主任者・水質関係公害防止主任者・高圧ガス製造保安責任者(液化酸素) 甲種防火管理者、甲種防災管理者、建築物環境衛生管理技術者(ビル管理士)、第2種電気工事士。

2. 体制 3 名

職種

臨床工学技士	1名
ボイラー技士	1名
事務総合職	1名

(業者) 施設: 明新メンテナンス株式会社
 清掃: 株式会社 ボイス
 警備: 豊国警備保障株式会社
 バス: 株式会社 エム・ビー

3. 概要、特徴、特色

エネルギー使用量		前年比
電気	5,311,328kwh	100.5%
ガス	522,883m ³	99.0%
水	66,415m ³	98.3%
CO ₂ 排出量	3,739t	100.2%

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 老朽化した施設設備の更新計画の立案と実施します。
- (2) エネルギー供給会社の検討、クリーンエネルギーの検討による環境負荷軽減します。
- (3) 非常災害マニュアル、BCPマニュアルの改訂等、災害対策を強化し、災害に強い病院づくりをすすめます。

入院医事課

部責主任 田中紗代

1. 任務、役割

病院の医療収入の半分以上を入院診療で占める中、入院で行われる医療行為を正確に、かつ漏れなくお金に変える事は病院の経営にも大きく関わってきます。

私たち入院医事課では、保険請求業務をはじめ、病棟運営のためのデータ作成・分析、医師アシスト業務といった多岐にわたる業務を担い、医師・看護師が治療・看護に集中できる環境をつくり、患者様への質の高い医療の提供へつなげていきたいと考えています。

2. 体制 12 名

職種

事務総合職	7名
事務スタッフ	2名
非常勤職員	3名

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

- ①「経営的な側面から病棟運営について分析し、病棟予算達成へ繋がる提起がされている。」
- ・入院期間の適正化のため、診療報酬改定の影響も含めたクリニカルパス修正を実施しました。また、病棟会議で退院期間確認及び分析を行うために、DPC II の期間を1日越えた患者の理由を調べ病棟会議、経営委員会で報告しました。分析の力をつけるため、複数の職員がMEDI-TARGETの研修を受けました。
- ・保険請求の査定削減のため、毎月の部会で返戻・減点の振り返りを行いました。
- ・各病棟の病棟会議では、病棟事務が医長・看護長と共に病棟の課題を推進しました。経営面については、病棟事務が報告を行い、各病棟が予算達成に向けた取り組みを行うことが出来ました。

(2) 病棟診療委員会(P158参照)

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 頼られる事務の育成。
- (2) 分析・発信力の強化(ツールの活用・データで示し理解を得る)。
- (3) マネジメント力の強化(病棟運営・経営について医師・看護師と連携)。
- (4) 医療の質の分析・課題発見・提起。
- (5) チーム医療への役割発揮(ファシリテーション能力)。

外来医事課

課長 野村健二

1. 任務、役割

- (1) 急性期病院として機能発揮するため外来診療における課題抽出を行い、患者・病院職員にとって利用しやすい、働きやすい環境を整備します。
- (2) 多職種と連携し質の高いケアを提供できる診療科運営を行います。
- (3) 医師・看護師および関連部門と連携し、予算達成に向けた診療科マネジメントを行います。
- (4) 多職種と連携し正確な保険請求を行います。
- (5) 事務総合職としての職務への理解を深め、お互いに学び合い育ち合う組織作りを目指します。

2. 体制 54 名

職種

事務総合職	15名
事務スタッフ	4名
非常勤職員	22名
当直事務	13名

3. 概要、特徴、特色

外来医事課の病院での役割は、①病院で行われる医療行為をしっかりと収入につなげること、②医療の質や接遇の質を維持するために国家資格を持つ医師をはじめとした集団をマネジメント(会議運営・ファシリテーター)することなどがあります。

- (1) 内科チーム(14名:常勤7、スタッフ職員1、非常勤6)
 - ①内科急患外来
 - ・内科急患外来患者受け入れ、救急対応、転送時の対応、医師補助業務。
 - ②専門外来
 - ・糖尿病、呼吸器、循環器等、内科疾患の専門領域を扱う。
 - ・患者受入れ、予約管理、検査説明および案内。
 - ・チーム会議の運営。
 - ③内視鏡業務
 - ・内視鏡の予約管理、チーム運営。
- (2) 外科チーム(18名:常勤5、スタッフ職員2、非常勤11)
 - ①皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、外科、小児科、整形外科、泌尿器科、婦人科
 - ・各診療科の受付業務、予約管理、検査説明および案内。
 - ・各診療科会議の運営。
- (3) 会計チーム(8名:常勤2、スタッフ職員1、非常勤5)
 - ①専門内科、婦人科、中央会計における患者窓口負担の計算

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 念書対応学習会(4月)
- (2) 外科外来の特色について(8月)
- (3) 福島視察からの報告(9月)
- (4) 入院問診の聞き取り方(10月)
- (5) 自治体制度について(11月)
- (6) 感染症基礎知識(1月)
- (7) 診療報酬改定学習
- (8) 消化器疾患について
- (9) 救急分野における胸腹部疾患
- (10) 脂質異常症について

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 職員が安心して業務することができるよう職種間を超えた業務整理の実施、および体制整備を推進します。
- (2) 多職種と連携し、診療科をはじめとしたチーム・委員会のマネジメントを行えるよう職員の育成を行います。
- (3) 医療生協、民医連の理念を日常業務の中で実践できる人材育成をすすめます。

システム管理課

課長 大野弘文

1. 任務、役割

- (1) 情報システムの適切な運用を行います。
- (2) 医療の安全性に寄与し、診断治療をバックアップできる情報システムを提供しています。
- (3) 医療経営情報の把握できるシステムを開発し、医療の質の向上に貢献します。
- (4) 資質の向上に努め、法令遵守をすすめます。

2. 体制 3 名

職種

事務総合職	2 名
管理栄養士	1 名

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

2019年度はリハビリシステム、病理システム、内視鏡システム、公文書システム、総合診療支援システムなど多くの新規システムの導入をしました。いままで電子化できていなかった業務の電子化や、学会へのデータ提出など対応できるようになっています。

病院建設に向けて環境管理課と一緒に、次期通信インフラを決めるプロポーザルを行い業者選定しました。

(2) 電子カルテ委員会(P171参照)

電子カルテ委員会と連携し、次期電子カルテ選定の事務局機能を担っています。

4. 学術・研究、講演、研究会等の記録

(1) 外部研修

- ① 電子カルテユーザーフォーラム
- ② 国際モダンホスピタルショー2019
- ③ 医療機関向けネットワークセミナー
- ④ 富士フィルムメディカルセミナー2019
- ⑤ 医療ITの今後FHIRについて

5. 今後の展望・次年度に向けて

2020年度より建設に合わせて、次期インフラや電子カルテ構築の議論が本格化していきます。ニーズに合わせて、当院にとって無理のないバランスのよいシステム構築を目指していきたいと思います。

健康管理課

課長 渡部美代

1. 任務・役割

健康増進センターの運営を担当し、健康診断の予約から受診、結果表作成、健診後フォローを行っています。

2. 体制 22 名

職種

看護師	1 名
事務総合職	4 名
事務スタッフ	4 名
非常勤職員	13 名

3. 概要、特徴、特色

(1) 健康診断数(2019年4月～2020年3月)

健康づくり健診	313件
特定健診	3,633件
被ばく者健診	68件
国保ドック	2,412件
医療生協さいたまドック	849件
じん肺健診	149件
事業所健診	10,487件
協会けんぽ	6,136件
職員健診	1,833件
上記以外の健康診断	5,132件
合計	31,012件

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 質の向上及び精度管理をすすめます。
- (2) 受診者の要望に応えます。
- (3) 収益確保をめざします。
- (4) 業務の効率化をすすめます。
- (5) 健診後フォローの充実をすすめます。

医師アシスト課

課長 菅原千明

1. 任務、役割

医師が専門的な知識・技能を生かして患者に安全・安心な医療を提供するためには、各職種の適切な業務分担と連携が必要です。医師アシスト課では医師の事務作業軽減に寄与する業務や医師の負担軽減に関する問題の調整等を行い、医師が診療に専念できる環境を提供しています。

2. 体制 25 名

職種

事務総合職	3名
事務スタッフ	5名
非常勤職員・派遣社員	17名

3. 概要、特徴、特色

(1) 医師の業務軽減

医師事務作業補助者の配置を流動的に行うことによって業務拡大や効率化につながりました。整形外科の学会発表に関わる症例登録など医療の質向上のための業務を行いました。医師サマリーや診断書等、月間約1,100件の代行入力を行っています。今年度は文書作成システムを導入し、文書完成までの時間短縮ができました。

(2) チーム医療への役割

病棟では予定入院患者の検査・手術の情報確認、クリニカルパスの適用、退院患者の書類準備などを中心に、迅速な対応に努めました。外来では内科、整形外科診察室で検査・処置・手術・他院紹介の手配など、円滑な外来診療のための支援を行いました。

(3) 図書室

担当職員1名を配置しています。図書の貸し出しや蔵書管理、相互貸借、レファレンス等の業務を行っています。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学習会

- ①介護保険制度について
- ②身体障害者福祉法について
- ③整形外科固定具について
- ④糖尿病疾患について

5. 今後の展望・次年度に向けて

(1) 専門職としての医師事務作業補助者を目指します。

医学的知識・社会保障制度知識の向上、事務処理能力の向上や他業務研修の推進を行います。

(2) 医師事務作業補助者の効果的な活用を行います。

医師が診療に専念できる環境の整備や医師の機会損失コストを考慮した業務整備をさらに進めます。

(3) チーム医療への役割を發揮します。

医師と他職種をつなぐポジショニングの確立を目指します。

(4) 適切な診療支援で患者の満足度を向上します。

(5) 新専門医制度の開始に伴い、図書室の整備をすすめていきます。

資材課

課長 小池綾一

1. 任務、役割

病院で使用する、医療材料・伝票類(印刷物)・事務用品などの購買業務を行っています。また、診療報酬改定や高額機器購入時には価格交渉を実施し費用削減を行い、ベンチマーク活用による価格低減を実施しております。

2. 体制 2 名

職種

事務総合職 2名

3. 概要、特徴、特色

医療材料に関わる費用の削減をし、経営の改善をめざしました。

(1)診療報酬、償還価格引下げの影響率90%以上の回復。

4月経過措置改定分遡及額	▲554,721円
7月経過措置改定分遡及額	▲427,513円
10月～12月マイナス改定分遡及額	▲753,847円 (達成率99.5%)
プラス改定分年間利益	12,235,021円 (達成率101.7%)

(2)各部門のデットストック(6ヶ月以上の長期滞留品)や期限切れを可視化し、定数適正化を図り費用軽減しました。

①長期滞留品(全体)金額

・3,000,597円→1,241,893円(達成率117.3%)

②定数見直しにより適正定数(全体)

・品目数 5,300品目→4,795品目

・金額 23,336,033円→20,814,159円

4. 教育、研修、研究活動

(1)全日本民医連 医療材料購入担当者会議に参加

5. 今後の展望・次年度に向けて

(1)償還改定がありベンチマークによる価格交渉で費用削減を追求します。

組合員活動課

課長 熊倉正明

1. 任務、役割

組合員活動課は、住民の「健康で安心した暮らし」を実現していくために、医療生協の活動を知らせ、「参画」してもらい、全職員や他団体の協力のもと、社会に働きかけ、「地域まるごと健康づくり」を目指しています。

2. 体制 5 名

職種

事務総合職 3名

管理栄養士 1名

非常勤職員 1名

3. 地域担当

南部Aブロック (10支部)	木曽呂・東内野、神根東、道合・神戸、根岸、源左衛門、芝北、柳崎、芝南、伊刈・芝、芝西
南部Bブロック (7支部)	差間、戸塚中央、戸塚南、東川口、安行、安行慈林、新郷
東部地区 (11支部)	草加、八潮、三郷、吉川、越谷、松伏、庄和、春日部中央、春日部北、春日部東、春日部南

4. 概要、特徴、特色

(1)支部でフレイル予防教室に取り組みました。

(Aブロック:4/10、Bブロック:5/7、東部地区:3/11)

(2)職員が、「健康ひろば」「安心ルーム」「くらしサポーター制度」の3つの取り組みを紹介できる「地域活動の案内」を作成し、活用が開始しました。

(3)「推進員制度の試行」がスタートし、支部の活動支援と担い手探しが始まりました。

(4)新患(新規加入者)に医療生協の事業と運動の特徴をお知らせする「ウェルカムパーティー」を開催しました。

(5)「埼玉協同病院リニューアル」「ケアステーションかしの木建設」の建設委員会では、組合員との検討が始まりました。

5. 今後の展望・次年度に向けて

(1)フレイル予防に取り組みで地域の「健康づくり」「保健予防」に寄与します。患者(利用組合員)に地域の医療生協活動を知らせ、参加に繋げていきます。

(2)推進員の役割を発揮し、支部の担い手を拡げていきます。

(3)「埼玉協同病院リニューアル」「ケアステーションかしの木建設」を地域に伝え、多くの人に建設運動に参加してもらいます。

総務課

課長 松川淳

1. 任務、役割

(1) 職員のサポート部門として、給与・福利厚生、社会保険関連など、働くために必要な環境や制度についてサポートしています。就労システムについての問い合わせや、集計・点検など勤怠・給与を取り扱っています。また、院内の会議室やパソコンなどの貸出用物品の管理を行い、会議や学習会などの環境面をサポートしたり、郵便物や宅配物の受付と仕分け、機関紙誌の配布を行い、職員への情報提供が速やかに行われるよう支援しています。

(2) 「困ったときは総務課に」となれるよう広範な守備範囲と気軽さを目指してきました。職員寮における相談、家族を健康保険の扶養に加入させる手続きや出資金の手続き、落とし物の問い合わせなど様々な用件で窓口を訪れます。患者さんが使用する院内の公衆電話、病室のテレビ、院内床屋さん、売店や自動販売機、観賞用植物(エコロジーガーデン)の窓口を行っています。

(3) 看護学生対応の専任を配置し、インターンシップや奨学生の対応はもとより、看護協会や院内の看護体制等について担当しています。

2. 体制 5名

職種

事務総合職	3名
事務スタッフ	1名
非常勤職員	1名

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

① 職員からの要望を聴きそれらを改善することで働きやすい環境づくりを行ってきました。

- ・環境・制度面の改善点を探る退職者からのアンケートを実施する準備ができました。2020年度から実践します。
- ・更衣室の拡大と環境面での改善を行ってきました。

② 就労システムの導入により「働き方改革」に対応し、超過勤務と有給休暇の管理が各部門でできるよう支援してきました。

- ・医局を除き、就労システムを導入しました。11月のテスト導入から2月の本稼働まで短期間のうちに、26回の説明会で340人を超える職員に伝達してきました。
- ・本部の協力を得て有給休暇取得状況リスト、超過勤務リストを作成し、管理者と部門責任者が閲覧できるフォルダーを作成し収納しました。また、就労システムからリアルタイムでそれらの状況が把握できることを伝えてきました。

③ 働くものための法令や規則を学び、職員へ正しい情報を伝達するよう努めてきました。

- ・総務課発行の「通船堀」を年間15回発行してきました。
- ・総務課職員の力量アップを行うため、研修会やセミナーに参加してきました。研修会・セミナーの内容は部会で共有し、相談者に必要な情報が提供できるようにしてきました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 退職者アンケートなど職員の働く環境や制度について要望を収集します。
- (2) 各種書類を紙ベースからデータベースに移行します。
- (3) 各部門間でハザマとなっているモノを積極的に拾い上げます。

つくし保育園

主任 丸岡京子

1. 任務、役割

医療生協さいたまに勤務する職員のお子様を保育しています。産休明けから2歳児までを中心に0歳、1歳、2歳以上の3つのクラスに分け保育を行っています。夜間、休日、臨時保育、病児・病後児保育も行っています。よく遊び、よく食べ、よく眠る、を3本柱に心身ともに健やかに元気に過ごせる子どもを目指しています。

2. 体制 19 名

職種

保育士	15名	(うち常勤職員4名)
保育助手	3名	
調理師	1名	

3. 概要、特徴、特色

- (1) 利用者の要望に応え、保護者を対象に保育参観を2回行いました。保育の内容や子どもの様子、また保護者の思いを直接聞き取れる場をもうけました。保育所での生活やお友達との関わりなど成長した様子をみることで、保護者との共通理解を深めることができました。保護者からは「様子を見ることができ、安心して働ける」との声が多く聞かれました。
- (2) 職員の子育て支援として、全職員を対象に子育てセミナー「勇気づけの子育て」を開催しました。子育てに前向きに取り組めるような子育てに関する情報提供や参加者の交流を図りました。9月から計6回行い、参加延べ数は103名で、「参考になった」との感想が多く、好評でした。
- (3) 散歩中の安全対策として、安全マップを作成しました。散歩のコースにより、危険なところをマップに記入し、職員間で共有しました。散歩時での安全意識が高まりました。
- (4) 改定されたアレルギーガイドラインを学習し、食物アレルギーや喘息やアトピー等アレルギー疾患児の対応の基礎知識を学びました。知識を深め、アレルギー対策の強化を図りました。
- (5) 実績
 - ①在籍児数:38人
 - ②臨時保育児実数:78人
(年間延べ数1,462人、月平均121人)
 - ③夜間保育児実数:20人
(年間延べ数482人、月平均40人)
 - ④病児・病後児保育実数:18名
(年間延べ数36人、月平均3人)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 発達支援サポーター養成講座 8名受講
- (2) 外部研修 10名受講

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 感染症対策を強化して子どもの安全を守ります
- (2) 専門職としての力量アップを目指します。
- (3) 地域や職員のニーズに合わせた子育て支援を目指します。